



年間第 19 主日 (ヨハネ 6:41-51)

イエスのもとに来る→信じる→肉を食べ血を飲む(1)

年間第 19 主日、来週の聖母の被昇天、再来週の年間第 21 主日を、繋がりのあるテーマで説教してみたいと思います。その繋がりとは、「イエスのもとに来る」「イエスを信じる」「イエスの肉を食べ、イエスの血を飲む」この流れで考えるということです。

先週初金曜日に、病人訪問に回りまして、暑さ対策に飲み物をちゃんと用意しなければと、冷蔵庫を開けました。運転中にペットボトルのキャップを回すのは至難の業なので、飲み口にストローが付いた別売りのキャップをはめて用意しました。

冷蔵庫を開けると、「しそジュース」と炭酸水が入っています。「おー、シュワシュワーっとしておいしそうだなあ」と思い、ペットボトルに「しそジュース」と炭酸水を詰め、出発しました。「炭酸入りのしそジュースはさぞうまかろう。」そんな想像を膨らませて出かけたのです。

病人訪問はいつも軽トラックで回っています。一軒目は県道沿いの個人宅です。二軒目は山の中のぼつんと一軒家です。二軒目に向かう頃にはさすがに喉が渇きまして、楽しみにしていた「しそ炭酸ジュース」のキャップに手をかけました。キャップは「パチッ」と音がして開いて、ストローが飛び出すので、運転中でもラクに水分補給ができます。いつも通りに「パチッ」とキャップの音がしました。

すると、何ということでしょう！それまで軽トラックがガタゴト揺れていたためにペットボトルは炭酸が膨張していました。飛び出したストローから勢いよく「しそ炭酸ジュース」が車の中であふれ出し、私は海外の表彰台でよくあるシャンパンファイトのように、大量の「しそジュース」を浴びたのです。飲み口が狭いストロー形状だったために想定外のことが起きたのでした。楽しみにしていた「しそ炭酸ジュース」は、結局一口しか飲めませんでした。

福音朗読に戻りましょう。三週連続で見渡す最初の一週目は、「イエスのもとに来る」というテーマです。イエスのもとに来ることくらい、朝飯前ではないか。皆さんはそう思うでしょうか？今週の朗読箇所イエスはこう言います。「つぶやき合うのはやめなさい。わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない。」(6・43-44)

自分の力で、自分の理解力で、イエスのもとまで来ることができるはず。多くの人がそう考えています。しかし実際は、「わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない」のです。

田平教会には毎年数え切れないほどの観光客が訪ねてきます。ステンドグラスがきれいだ、レンガ造りの聖堂が見事だ、いろんな驚きと感嘆の声を上げて帰りますが、その中の誰も、信仰に導かれる人はいません。ただの一人もいないのかと言われれば分かりませんが、時々そうい

う人が現れるのであれば、今ごろは洗礼の勉強会で大忙しのはずです。観光客が肉眼で見るものは私たちが見るものと同じはずですが、私たちのように祭壇に近づき、聖書のみことばに近づくことはないのです。

私が先ほど引用したみことばは、ある場面で頻繁に唱えたり耳にしたりしていますが、何の場面か思い出せるでしょうか？「わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない。わたしはその人を終わりの日に復活させる。」

ここまで言えばたいいてい人は思い出すでしょう。これは、葬儀ミサの告別式の中で繰り返し唱えている言葉です。亡くなった人は、自分の意思でイエスのもとに来ることはできません。御父が引き寄せてくださって初めて、イエスのもとに行くことが可能なのです。

私たちは自分の足でミサに来たと考えています。自分の意思で教会に来たと考えています。教会に来るか来ないかを決めたのは自分だと考えています。果たして本当にそれだけでしょうか？自分の意思でミサに行きたいと思っている人すべてが、ここに集まることができたのでしょうか。あるいは、ミサに行きたくないと思っている人はすべて、ここには来ていないのでしょうか。

そうではないと思います。私たちは何らかの形で、御父に引き寄せられて、御子イエスが祭壇上でささげるミサに与れているのです。私たちがみことばと御聖体まで近づくことができているのは、恵みによるものなのです。恵みは、私たちの努力の対価ではありません。完全に無償で与えられているものです。私はその恵みに感謝しているのでしょうか。

ミサに参加したいのに参加できない人がいる中で、私はこのミサに参加しています。これが恵みでなくてなんでしょうか？当たり前のように思っていること、朝起きて夜眠りにつくこと、そばにいる人が今日もそばにいてくれていること。あらためて感謝の気持ちを表してください。今週のテーマである「イエスのもとに来る」とは、ここまで踏み込んで近づくことです。

「行こうと思えば行ける」「しようと思えばできる」それは何の言い訳なのでしょう。私には、捨てられない何かがあるのと言い訳しているようにしか見えません。これまで捨てきれなかった何かを自ら捨てなければ、イエスのもとに来ることはできないのです。

今オリンピックが開催中ですが、一つのもので得るために、参加している選手達はどれだけ多くのもを捨ててきたことでしょうか。3年後、4年後には過去の栄光となるかも知れないのに、ただ一つのものためすべてを犠牲にして準備します。

「イエスのもとに来ること」は、私の力、意思だけではたどり着けません。この祭壇に、このみことばの食卓に触れる人は、父なる神の恵みによって引き寄せられた幸いな人たちなのです。心から感謝しましょう。恵みに気付いて感謝できる人こそが、次の週に取り上げる「イエスを信じる」人へと導かれるのです。